



平成17年2月24日発行



北海道
国際理解教育研究協議会



会報
第60号



会長 眞木 孝輝



事務局長 池田 幸一



「韓国の教師にふれて感じたこと」

北海道国際理解教育研究協議会
会長 眞木 孝輝

先日、日本の学校や教師との交流のために韓国から代表して派遣された教師の歓迎レセプションがホテルニューオオタニで行われた。私は北海道国際理解教育研究協議会を代表してこれに参加する機会を得た。そのレセプションでびっくりしたことは、多くの韓国の教師が英語をすらすらと話すことだった。それに対して日本の教師は恐る恐る拙い英語(特に私などは単語の羅列に近いもの)を話すかただ微笑みながら静かに立っている人が多くいるように感じたのは杞憂だろうか。

同じ小中学校の教師でありながらこの違いは何から来るものかと考えた。確かに韓国の小学校では英語が授業科目に取り入れられたため、小学校教師全てが英語の再教育を受けて英語を教える資格を持たなくてはいけなくなった。

それだけなのだろうか。教師の英語教育の資格がどうの、英語が授業科目になったからこのだけではないように私は感じるのだが。たぶん、韓国の将来がこの児童生徒の英語教育による英語能力と国際性向上にかかっていると国民あげて(勿論児童生徒も)認識しているからではないだろうか。だから韓国の学校での英語に対する児童生徒の学習意欲は極めて高くなるのだろう。

そういう国民全体の意欲が、取り組みの結果が、自動車や白物家電を始めとする工業、パソコンや半導体などのIT産業など今や日本を追い越す勢いとなって現れているのだろう。方や日本の方はどうなっているのだろうか。ここにある研究所が行った日本・アメリカ・フランス・韓国の児童生徒の意識調査の興味ある結果の一部を紹介する。

- 貴方の子どもを誇りに思いますか？ 三カ国→70～80% 日本→約40%
- 将来の夢や志はありますか？ 三カ国→80%以上 日本→40%
- どんな意識をもって生きていますか？ 日本→自分は人並みで言い、大変な仕事は他人にしてもらいたい。

この三点において、アメリカやフランス、韓国と日本は大きなちがいがあったそうである。

むべなるかなである。大変な事態に陥っていることを私達日本人は自覚すべきであると思う。

経済が一流であることは目標としては良かったのだろうが、生活にある程度ゆとりが出てくるといわゆるハングリー精神が欠けてきて、あの素晴らしい日本人の勤勉性が弛緩してくるのだろう。世界が相互交流相互依存の中で成り立っていることを忘れてしまいがちとなり、自分だけが日本だけが良ければの考えに陥るからこそこんなにだらっとしてしまうのではないだろうか。

レセプションで感じた韓国の教師の強い意欲に私は「日本の教育は？社会はこのままでよいのだろうか？」と考えさせられたのであった。

理事会総会開催される



次期会長に 池田幸一氏（札幌市立新陵東小学校長）を選出

新事務局長には、後藤宏氏（札幌市立南の沢小学校長）

平成17年1月7日（金）、帰国報告会・派遣教員研修会に先立って午前中に北海道国際理解教育研究協議会理事会総会が開催された。今回の理事会総会では、平成16年度後期の活動報告と、平成17年度の運営計画・活動計画についての審議を中心に行われた。今回の理事会総会において、次期役員を選考が行われ、新会長に現事務局長の池田幸一札幌市立新陵東小学校長を選出した。また、新事務局長には、現在の事務局次長後藤宏札幌市立南の沢小学校長を選出した。

理事会総会の次第は、下記の通りである。

1. 開会の言葉
2. 会長挨拶
3. 自己紹介（理事・事務局員）
4. 説明報告事項
 - (1) 平成16年度派遣教員及び帰国教員研修会、激励会について
 - (2) 平成16年度後期会務報告
事務局・庶務・広報・会計・組織・研究
 - (3) 平成16年度監査報告
 - (4) 第25回北海道国際理解教育研究大会・釧路大会終了
平成16年10月14日（木）・15日（金） 大会集録発行準備中
 - (5) 第26回北海道国際理解教育研究大会・石狩大会
平成17年11月11日（金）・12日（土）開催
5. 審議事項
 - (1) 平成17年度事業計画
事務局・庶務・広報・会計・組織・研究
 - (2) 役員選出
休憩 ※役員選考委員会（司会：後藤次長）
6. 新旧役員紹介挨拶
7. 来年度大会地より
8. 連絡・その他
 - (1) 道教委より依頼 韓国教職員交流訪問団（25名）視察協力
17年1月26日・27日 胆振地区、 28日 札幌地区
9. 閉会の言葉

以上の次第に沿って理事会総会が行われ、報告事項については、すべて承認された。また、審議事項についても提案通り承認され、その計画に沿って平成17年度の運営が行われることになる。特に研究に関しては、第7次研究のまとめとして中村研究部長より成果と課題の報告があり、さらにそのまとめを受けての第8次研究のテーマ「自ら地球にひらき、未来に切り開く児童生徒の育成」と研究計画の提案がなされた。（研究の詳しいことについては、理事会総会と並行して各地区の研究担当者が集まったの研究担当者会で十分検討された。次のページに詳しく載せたので是非一読いただきたい。

第26回

北海道国際理解教育研究大会石狩大会のご案内

- <開催期日> 平成17年11月11日(金)・12日(土)
<主会場> 江別えぼあホール・江別市立大麻中学校
<レセプション会場> JRタワー
- <授業協力校> 江別市立大麻中学校・江別市立大麻小学校
江別市立文京台小学校・江別市立大麻東小学校
江別市立大麻西小学校

* 北海道開発教育ネットワークの方々によるワークショップも公開予定

<講演会> 北海道教育大学札幌校 大津和子先生

<大会日程>

【1日目】 11月11日(金)

9:00 10:30 11:00 11:45 13:00 13:50

役員打ち合わせ	受付	小学校公開授業	移動・昼食	中学校公開授業
---------	----	---------	-------	---------

14:00 【大麻中】 15:00 16:30 18:30

休憩・移動	開会式・全体会	授業別分科会	移動	レセプション
-------	---------	--------	----	--------

【2日目】 11月12日(土)

9:00 9:30 【えぼあ】 11:00 【えぼあ】 12:30

受付	課題別分科会	講演会	解散
----	--------	-----	----

<主な研究内容>

- (1) 国際理解教育のカリキュラム作成と評価について
- (2) 国際理解教育を通しての児童生徒の変容について
- (3) 小学校の英語活動について
- (4) 外部機関との連携について

平成16年度

『派遣教員及び帰国教員研修会』開催される

去る1月7日（金）、ホテル札幌会館において、平成16年3月末に帰国した先生方の帰国報告会と、来年度平成17年度に派遣予定の先生方の研修会が行われた。この研修会は、次年度の派遣教員の派遣先が決定した後の1月に毎年、本研究協議会が主催して実施しているものである。当日、開会式では、後援を頂いている北海道教育委員会より来賓としてご出席くださった杉浦仁氏（北海道教育庁生涯学習部小中・特殊教育課小中教育指導グループ主査）よりご挨拶をいただいた。



開会式に引き続き行われた全体研修会では、16年3月にコロンボから帰国された石原和人教諭（札幌市立元町小学校）の講演があった。

そしてその後、約1時間半にわたって、下記のような地域別の分科会に分かれて帰国報告会が行われた。

《アジア・中近東部会》

発表者；石原和人（コロンボ） 花坂しづ（ジャカルタ） 五十嵐義幸（アブダビ）

《アジア・南米部会》

発表者；武山昌裕（ハノイ） 山川修（クアラルンプール） 吉田英明（サンパウロ）

《ヨーロッパ部会》

発表者；吉田敬三（ベルギー） 中間靖之（フランクフルト） 箭内浩之（モスクワ）

《ヨーロッパ・オーストラリア部会》

発表者；竹内結美（シドニー） 道源義博（モスクワ） 柴田政人（ロンドン）

各先生方からは、派遣先の国内事情や日本人学校・補習授業校における教育の現状についてご自身の教育実践をもとにお話しをいただいた。

なお、北海道国際理解教育研究協議会では、帰国報告をしていただいた先生方に執筆いただいた下記の報告集を発行している。これは、毎年発行しているもので、北海道から派遣されている世界中の在外教育施設（日本人学校・補習授業校）の教育の現状についてこの報告集を見れば一目でわかるようになっている。

この報告書希望の方は、北海道国際理解教育研究協議会事務局まで問い合わせください。

「平成16年度 在外教育施設派遣教員帰国報告書」

在外日本人学校での教育の現状と展望

北海道国際理解教育研究協議会編（162ページ）

17年度派遣教員

平成17年度

在外教育施設派遣教員候補登録者

所 属	職名	氏 名	派 遣 先	国 名
室蘭市立鶴ヶ崎中学校	校長	泰地 和幸	上海日本人学校	中国
猿払村立拓心中学校	教頭	佐藤 敦彦	クアラルンプール日本人学校	マレーシア
小中・特殊教育課	教頭	磯部 伸一	シドニー日本人学校	オーストラリア
乙部町立乙部小学校	教諭	久慈 学	ニューデリー日本人学校	インド
俱知安町立俱知安中学校	教諭	小林真奈美	日本メキシコ学院日本コース	メキシコ
小樽市立幸小学校	教諭	赤松 慎也	ダッカ日本人学校	バングラデシュ
南幌町立南幌中学校	教諭	桐 潤 則行	モスクワ日本人学校	ロシア
美唄市立西美唄小学校	教諭	福士 晶知	ウィーン日本人学校	オーストリア
網走市立呼人小学校	教諭	天野 昌明	広州日本人学校	中国
北見市立相内小学校	教諭	吉村 雅彦	マニラ日本人学校	フィリピン
北見市立西小学校	教諭	河原 賢	ヨハネスブルグ日本人学校	南アフリカ
室蘭市立母恋小学校	教諭	萩原 享	バンコク日本人学校	タイ
静内町立静内中学校	教諭	中島 次郎	リアド日本人学校	サウジアラビア
帯広市立大空中学校	教諭	金元 弘子	ローマ日本人学校	イタリア
幕別町立札内南小学校	教諭	上坂 寛	カラチ日本人学校	パキスタン
別海町立上春別中学校	教諭	飯田 雄士	ナイロピ日本人学校	ケニア
札幌市立厚別東小学校	教諭	白川 典洋	大連日本人学校	中国
札幌市立南郷小学校	教諭	中池 徳幸	パース日本人学校	オーストラリア
札幌市立星置中学校	教諭	新井 拓	メルボルン日本人学校	オーストラリア
札幌市立あいの里東中学校	教諭	藤田 憲一	デトロイト補習授業校	アメリカ

派遣される先生方のご活躍をご期待申し上げますとともに、任期を終えて、先生方はじめご家族の皆様が健康で帰国されますことをお祈り申し上げます。

IBアフォーラム

「六割が国際理解教育を実施」これは兵庫教育大学の研究委員会が、全国の中,高等学校5700校にアンケートした結果である。六割の学校が国際理解教育を実施しながら、指導方法や授業内容はばらばらだったと報告するとともに、今後の課題は「カリキュラムづくり」だとまとめている。

この、「研究報告」は、国際理解教育の学校現場における位置付けの弱さを物語っていると同時に、これから我々が進まなければならない方向性を示している。

我々は、「自ら学び考える力」と「基礎・基本」をしっかりと結びつけ、子供たちに学ぶ意味を納得させ生きる力を育む場として国際理解教育の実践を積み重ねてきた。ところが、まだ、この研究を見る限り、教科の縦割り主義として呪縛から抜け出していないという現実のようだ。一般には、国際理解教育という「教科」が存在しているような錯覚に陥っている仲間がまだまだいるということである。

この、状況を脱皮にする為には、「育てる力」「育てられない力」をはっきりさせた授業作りを徹底するとともに、多様な交流を通して授業の姿を共有化していくことが必要だ。こうすることで、国際理解教育の姿がはっきりするとともに、「カリキュラムづくり」という課題を乗り越えられると考える。

幸い、四月から「第八次研究」が新たに始まることとなった。文科省が一段と路線変更を図っていることから現場の混乱続くことが予想できる。この状況を考える時、「石狩・胆振・網走」と続く、研究会を通して、我々の実践を発信していくことが現場へ学びのあり方を提案するとともに、十割の学校で国際理解教育する力になると考える。

図書紹介

ヨーロッパ市民の誕生

著者紹介

1940年 東京生まれ
社会学
立教大学社会学部教授

宮 島 喬著
岩 波 新 書
(岩波書店)

これからの国際理解教育の方向性を考える時、「シティズンシップ」は、一つの鍵を握っていると考える。実際教育雑誌でも「シティズンシップ教育」を特集したものが出されるようになった。

これは、単一民族と思っていた日本社会においても、フランスの十分の一とはいえ、年間1万5000件ほどの帰化があり、ニューカマーが日常化している社会の状況があるためだろう。また、一人一人の個人が社会の平等なメンバーとして認められ、共同体に参加し、そこに一体化すること、すなわち、一人一人の子供を社会の一員として育てることが教育の大きな使命であることがあらためて再認識されてきたためだろう。

確かに、シティズンシップは、地域統合が進むヨーロッパで明らかにされてきた問題である。しかし、グローバル化が進むだろうこれからの社会において、人の移動がますます自由になった時、国民、国家、国籍はどうなるのであろうか。未来の日本社会のあり方として問われているのも現実である。社会学者として長きにわたってヨーロッパ社会を観察し、多層化するシティズンシップ行方のあり方を探ってきた著者は、この概念を今のヨーロッパの姿を通して説明するとともに、明日の日本の社会のあり方を描き出しているといえる。

十年後の日本のあり方、そして国際理解教育の行方を示す良書だと考える。

(北海道国際理解教育研究協議会研究部長 中村 淳)



日頃より本会の活動につきまして、深いご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

本会は皆様の会費によって運営されております。会費は全道大会の運営と研究推進、会の円滑な運営、推進のため、お手数でも滞りなく納入いただきますようお願い申し上げます。

なお、納入状況等につきましての照会は、会計澤田崇までお願い申し上げます。

〈照会先〉

事務局会計 澤田 崇（札幌市立幌北小学校） TEL 011-726-2461 FAX 011-716-0944

北海道国際理解教育研究協議会

年会費 3,000円

郵便振り込みにてお願いいたします。

振込先 澤田 崇

口座番号 0 2 7 5 0 - 4 - 3 4 0 9

※通信欄には、氏名、支払い年度、おわかりでしたら
会員番号もお書きいただくと幸いです。

ご意見・ご感想・情報をお寄せください

北海道国際理解教育研究協議会

E - mail kokusai@hokkaido.777.ac

道内、国内、海外を問わず情報を事務局までお寄せください。また広報についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

各地区における活動状況、実践報告、研究推進、各国の情報等を文書と画像も添付してお送りください。変換後、順次、広報に掲載して参ります。たくさんの方の情報をお待ちしております。

発行 北海道国際理解教育研究協議会広報部

会 長 真木 孝輝（札幌市立もみじ台西小学校長）
事務局長 池田 幸一（札幌市立新陵東小学校長）
広報部長 古里 和雄（札幌市立手稲西小学校）

